

情報教育を通して 自分を表現できる子を 育てる

(代表執筆者) 三重県鳥羽市立神島小学校

はやし 林 ただし 義

【実践の概要】

情報教育を柱にし、新学習指導要領の「総合的な学習の時間」を見据えた学校体制を確立していくことを目標とした。その中で、情報活用の実践力だけでなく、情報の科学的な理解や情報社会に参画する態度を養っていく基礎を取り入れることを考えた。

県内外の学校の子どもたちとの交流をした。きっかけは、ホームページであった。実践の結果、子どもたちが物との出会い・人との出会い・自分との出会いを通して得たものを、将来、地域のなかで「生きてはたらく力」として発揮してくれるものと確信している。

【論文内容の紹介】

1 テーマ設定の理由

神島の子は明るく健康であるが、自分の思いを素直に表現したり、相手の思いを客観的にくみ取ることが苦手である。そこで、豊かな表現力や理解力を育てるために「総合的な学習の時間」を含めたあらゆる教育活動のなかで「情報教育」を中心に据えて進めていくことで、問題の解決にせまろうと考えた。

2 情報教育のとらえ方

情報教育は、活動のベースにコミュニケーションが存在しなくてはならない。その人間の心の交流なしに進める情報教育は、無味乾燥な人間味のない教育活動に陥る。情報とは「適切な判断や行動をするために役立つ資料や知識」である。「情報教育」を通して「自己表現力」をつけることは、主体的に「生きる力」を着実に育てるものである。

3 研究仮説

情報の発信や受信によって、神島や地域を再発見し、郷土への誇りをより感じることであろう。また、表現力に磨きがかかり、他校や他地域との交流に自信をもつであらう。

4 研究の実際

(1)へき地と情報教育

PCの主な活用方法は「遠隔通信授業」のための道具としての利用であり、研究であった。なぜ遠隔通信授業なのかというと、神島が離島という地理的環境に位置しているからこそである。市内の学術施設との貪欲なまでの遠隔通信授業、学校間交流授業の活動を展開してきている。このような活動を通して、交通手段の不便さや少人数学校・学級のデメリットなどを、高度情報通信システムの活用によって逆にメリットに転換し得る可能性を、研究の過程で見いだしてきた。

(2)食教育とPC

文部省の指定で、食教育とPCとをいかに関連づけ、効果的な指導を進めていくかということから研究が始まった。

(3)子どもたちの育ち

PCを自由に使える環境を与えている。また、積極的にデジカメを使わせ、学校生活を撮影させている。撮影後、ディスプレイなどに取り込んで、どうしてこの場面を撮影したのかを発表し合う。このデジカメ活動も、表現力の向上の一助となっている。

(4)仮想と現実

機械相手の場面ばかりを設定すると、現実感が希薄となり、興味・関心の持続が難しい。できるかぎり実体験の場面を設定し、相乗作用による教育効果を情報教育に位置づけた。

5 成果と課題

情報の更新活動を継続することにより、目に見えない相手やモニターに写っている相手に向かって、相手の呼吸を意識しながら自分の気持ちを素直にはっきりと表現しようとする態度が養われつつある。